

報道関係者各位

2024年9月吉日

## 第82回 虎屋文庫資料展のご案内

包む・彩る・伝える

## 虎屋のパッケージ展

2024年10月1日(火)～11月24日(日)

休館日:10月6日(日)、11月6日(水)

虎屋 赤坂ギャラリー[とらや赤坂店 地下1階] 東京都港区赤坂4-9-22

地下鉄赤坂見附駅 A出口より徒歩7分 入場無料 10:00～17:00

展示解説 10月14日(月・祝)、10月28日(月)、11月4日(月・祝)、11月18日(月)

\*10:15～ 当日1回のみ開催 (予約不要)

羊羹の竹皮包みは江戸時代から。モダンなデザインのゴルフ最中の箱は大正生まれで、虎を描いた手提げ袋は昭和の高度経済成長期に考案されました。色や形の工夫によって菓子の魅力を伝えてきた虎屋のパッケージ、およそ150点を一挙にご紹介します。

## 主な展示品の紹介

## ゴルフボールの箱に見える? ゴルフ最中のパッケージ

ゴルフボールを模したゴルフ最中は、三菱財閥総帥、岩崎小彌太<sup>いわさき こやた</sup>の夫人からの注文がきっかけで大正15年(1926)に発売。パッケージも、ゴルフボールの箱のように作られました。今回は初代の箱(写真①)から現在のものまで展示します。戦前はアールデコ風、戦後はシンプルな配色に直線的なデザインなど、時代に合わせ変化していった様子がわかります。

## 南極にも旅をした、丈夫な缶詰羊羹

昭和20年代から40年代前半に販売した缶詰羊羹(写真②)は、店頭販売のほか、日系人が多く住む海外にも輸出されました。さらに、丈夫で長期保存ができる缶の特性から、南極観測隊にも寄贈されました。会場では、実際に南極に旅をした缶詰羊羹を展示します。今も変わらないその姿を、どうぞご覧ください。

## 干菓子のパッケージは夢の新素材

昭和43年(1968)発売の干菓子「推古」の箱は、当時最先端の素材として知られたプラスチック製。新しい菓子に合わせて新素材を取り入れたのでしょう。蓋のデザインには、菓子の意匠となった法隆寺金堂の高欄<sup>こうらん</sup>の模様、「卍くずし」を取り入れており、ジュエリーケースを思わせるような美しさです。

## 昔も今も…… 虎の手提げ袋

虎を描いた手提げ袋は、虎屋の安永 5 年(1776)のひなせいろ\*雛井籠をもとに金属工芸作家の永井鐵太郎氏ながいてつたろう(1936～2021)がデザイン。昭和 45 年(1970)より使用を開始しました。黄色の虎から金色の虎に変えるなど、調整をしつつ現在に至ります(写真③)。会場では、歴代の手提げ袋と、デザインのもととなった雛井籠を展示します。

\*井籠は菓子を運搬する容器。

このほか、虎屋の包装紙や再現菓子などもご紹介します。

**\*掲載の画像につきましてはデータがあります。お問い合わせください。**



①ゴルフ最中



②缶詰羊羹



③手提げ袋

## 限定商品の販売

和三盆糖製『シイハイル』12 個入 1,800 円(税抜)

(限定 300 箱)

「シイハイル」(SKI HEIL)とは、ドイツ語で「スキー万歳」を意味する、スキーヤー同士の挨拶の言葉。

虎屋 15 代店主黒川武雄考案の、雪の結晶をモチーフにした和三盆糖製の小さな干菓子で、今回は、昭和 34 年(1959)に新装発売した際のパッケージデザインを掛紙にアレンジし、販売します。



富岡鉄斎原画 虎ポストカード 1 枚 500 円(税抜)

近代日本画壇を代表する画家の一人、富岡鉄斎とみおかてっさい(1836～1924)が手掛けた、「竹に虎」の掛紙(右図)をモチーフにしています。一枚一枚和紙に手摺りした、柔らかな風合いのポストカードです。



いずれも 10 月 1 日より販売(赤坂店限定)。

## お問い合わせ先

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-17 赤坂第一ビル 2 階

株式会社 虎屋 虎屋文庫

Tel:03-3408-2402 Fax:03-3408-4561 E-mail:bunko@toraya-group.co.jp

<https://www.toraya-group.co.jp/>

取材については 株式会社 虎屋 マーケティング部広報へ

Tel:03-3408-4128 E-mail:pr@toraya-group.co.jp